



各国での活動とニュース

「宇宙への扉」 (紹介記事)

ブータン



星槎グループが進めている宇宙に関する学びの中で、ご縁があり、九州工科大学で宇宙工学を学んでいるブータン人学生と知り合いました。宇宙航空教育の理念である「好奇心」「冒険心」「匠の心」を実践している留学生です。この場を借りてその方をご紹介します。

(FGC 石田博彰)



九州工科大学宇宙工学ラボの様子

プージャ・レプチャさんからのメッセージ

私は、プージャ・レプチャと言います。ブータンのサムツェ県出身で、現在、九州工業大学で電気宇宙システム工学の博士号を取得するために学んでいます。私は、同大学で修士号を取得し、ブータン王立大学理工学部では、電気工学の学士号を取得しました。2016年、私はブータン王立道路安全管理局の電気エンジニアとして入社し、電気技術者として勤務していました。同年10月、ブータンの技術者3名がブータン初の人工衛星を作るために来日したことをきっかけに、宇宙工学のことを知りました。私自身は、九州工業大学で宇宙工学の修士号を取得するために、国連/日本長期フェロシップ「超小型衛星技術に関する研究 (PNST: Post-graduate study on Nanosatellite Technologies)」に合格し、その後、情報通信省の情報通信宇宙事業部に異動して来日しています。2017年9月に来日し、直ぐにブータンの最初の人工衛星キューブサット衛星を作るチームに加わることができました。BHUTAN-1は、2018年6月29日に、スペースXファルコン9ロケットに搭載し、米国フロリダ州のケープカナベラル空軍基地から国際宇宙ステーションへ打ち上げられました。同年8月10日、BHUTAN-1は、他のキューブサットと地球の低軌道に放出されました。現在、25カ月以上地球を周回しています。また、ネパールとスリランカの自国初の人口衛星制作にも参加しました。私は、主に衛星の電力系統 (EPS) を担当しています。EPSは、日食時や日照時に衛星に電力を供給するためにとっても重要な役割を果たします。私は現在、超小型衛星「KITSUNE」という6U衛星プロジェクトのメンバーです。衛星プロジェクトに参加することで、実地での経験を積むことができ、テーマに対する理解が深まります。ただ授業に参加するだけでなく、実際にやってみることでより多くのことを学ぶことができます。博士号取得後は、ブータンでSTEM教育や宇宙活動に携わりたいと思っています。



Pooja Lepcha
(プージャ・レプチャ)さん

エリトリアの COVID-19 対策

エリトリア



アフリカ大陸全体での新型コロナウイルス感染者は、2020年9月末の時点で約145万人と報告されています。そのうち、感染拡大が最も激しい南アフリカが約67万人であることを考えると、アフリカ全体での感染拡大は他の地域に比べ抑えられていると言え、新規感染者数も7月末をピークに減少しています。しかし、アフリカの多くの国が抱える医療体制の問題等を考えると、今後も油断のならない状況であることに変わりはありません。

世界こども財団が支援を続けているエリトリアは、3月21日にアスマラ空港で初の感染者が確認されると、4月18日に緊急事態宣言を発令、首都でのロックダウンを実施するなど、迅速な対応をとってきました。10月5日現在での累計感染者数は398人となっており、アフリカ諸国の中でも非常に少ない数字を

維持してきました。3月には早々に、新型コロナウイルス対策のための寄付を募るパブリックキャンペーンがオンラインでも開始され、世界こども財団でも寄付を行いました。

これまで懸命に対策をとり、成果を上げてきたエリトリアですが、この状況がエリトリアの人々に与える社会的、経済的な影響は非常に大きいことは間違いなく、今後も現地との連携をとりながら、支援を続けていきます。(FGC 石井洋祐)



エリトリアの COVID-19 対策支援の寄付を募る特設サイト
<https://www.eritreafightscovid19.org>



対策に当たる医療従事者たち
(エリトリア情報省 HP より)



留学生生活動報告

大学陸上

ケセテ選手 (星槎道都大学陸上競技部所属)

8月21日(金)～23日(日)にわたり開催された、第72回北海道学生陸上競技対校選手権大会に5000mで出場し、14分54秒38で3位となりました。そして、9月19日(土)、20日(日)に行われた第49回北海道学生陸上競技選手権大会5000mでは14分40秒74で、来日して初めての優勝を勝ち取りました。



賞状を手に笑顔のケセテ選手

来年の卒業に向けて勉強と共に競技面においては怪我をしないよう来春のトラックシーズンを迎えるようもっていかせたい。

(星槎道都大学陸上競技部監督 石井祐治)

デジエン選手 (星槎大学陸上競技部所属)

9月11日(金)に行われた第89回日本学生陸上競技対校選手権(全日本インカレ)の10000mに出場しました。結果は29分54秒10で12位につけました。また、7月19日(日)のホクレン・ディスタンスチャレンジ2020第4戦千歳大会の結果から、関東学生陸上競技連盟の強化派遣対象選手に選ばれました。今後の活躍にご期待ください。

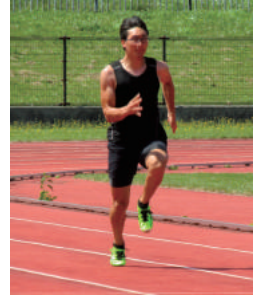


強豪選手相手に激走するデジエン選手

6月から大きな故障がなく練習が出来ているので、練習の強度を上げながら練習の成果が試合で出せるようにコミュニケーションを取りながら指導していきたい。(星槎大学陸上競技部監督 植村和弘)

ペンジョ選手 (星槎大学陸上競技部所属)

8月に東海大学記録会に2回、札幌記録会に1回参加し、結果は200m23秒55(自己ベスト更新)、400m52秒67のタイムを出しました。記録会が続いたため、疲労と足の張りがあり思い切り走れない場面もありましたが、現状のタイムを受け止めトレーニングに励みます。(FGC 井上美智代)



日々練習に励むペンジョ選手

より速いメンバーと走る際についていければタイムが出る可能性があった。今後は気持ちの部分も攻めていけるようにしていきたい。

(星槎大学陸上競技部短距離コーチ 川面聡太)

高校陸上

8月7日(金)に秦野カルチャーパークで第1回合同陸上競技記録会(非公式)が開催されました。今記録会は星槎国際高校が主催となり明海大学、星槎大学が参加しました。コロナ禍で大会中止が相次ぐ中での初めての開催で、星槎国際高校湘南の陸上競技専攻全員は久しぶりに緊張感がある中で走る事ができ、現状を知る良い機会になりました。記録は、1500mに出場したメルハワイ選手は4分04秒09、ダイヤモンド選手は4分25秒09、5000mに出場したメルハワイ選手は15分47秒06でした。

そして9月5日(土)と6日(日)に行われた神奈川県高校新人陸上競技大会西地区予選会では、星槎国際高校湘南2年生のエリトリア留学生ナトナエル選手が怪我から復帰し、初出場を果たし、1500mを4分27秒79となりました。同じく2年生のメルハワイ選手は、5000mを15分43秒08、自己記録を更新し、組1位となりました。(FGC 木村友香)



石塚先生からのアドバイスを真剣に聞く(写真左から)メルハワイ選手とダイヤモンド選手



自己ベストを狙うメルハワイ選手とそれに続くダイヤモンド選手

エリトリアからの留学生は日々の努力によって大変成長することができました。今後もさらに高い目標に向かって努力することを期待します。

(星槎国際高校湘南陸上競技専攻顧問 石塚靖夫)

アーチェリー

9月5日(土)に富岡アーチェリー場で神奈川県高体連新人選手権大会が開催されました。今大会では星槎国際高校湘南1年生奥村選手、そして同校3年二ドウ選手が出場しました。それぞれの課題として取り上げられている、矢を打つ瞬間に力まないことやシューティングバランスを整えることなどを意識して大会に臨むことができました。その結果、1位639点奥村選手、2位616点二ドウ選手が入賞しました。次の大会は11月に星槎国際高校湘南アーチェリー部とブータンアーチェリー連盟(BAF)をZoomで繋ぎ、2国間リモートアーチェリー交流大会を開催する予定です。(FGC 木村友香)



競技後、記念撮影に応じる3人(写真左から二ドウ選手、ソナムさん、奥村選手)



大磯キャンパスにて普段の練習風景

試合には徐々に少しずつ慣れてきており、緊張することなく、自分のペースで試合を進めることができた。しかし、集中が途切れ、ミスがあった。そのミスを減らすことが出来れば、点数も上がってくる。最後まで集中するためにも日ごろの1射を大切にほしい。(星槎国際高校湘南アーチェリー専攻顧問 茂田佳裕)



留学生生活動報告

空手

ミャンマーから長期スポーツ奨学生（空手道）として来日し、星槎国際高校湘南で学ぶカウン選手、ヤミン選手、スー選手の3人は8月30日（日）に開催された松濤館空和会主催の昇段昇級審査会に参加しました。当日は緊張した様子でしたが、日頃の練習成果もあり気合の入った形を披露してくれました。その結果、見事カウン選手が初段、ヤミン選手とスー選手は1級に合格することができました。

また、9月27日（日）には高体連主催の公認級審査会にヤミン選手とスー選手の2人が臨みました。当日は前回同様緊張からか

動きが硬く、いつも通りのパフォーマンスができず精神面での大きな課題も残りましたが、見事2人も1級に合格することができました。3人はこの日の級審査会に向け、平塚工科高校の生徒と合同練習を行い、緊急事態宣言の発令以来となる再会に、喜びを分かち合いました。形の練習では、先生方やOBの方々、先輩方から細かな動作、注意すべき点等を一つ一つ熱心に指導していただき、本人達も真剣に耳を傾け練習に取り組んでいました。11月には昇段審査や新人戦が控えています。良い結果をご報告できるよう引き続き練習に励んでいきます。（FGC 宮川翔太）



松濤館空和会の昇段審査を受審するカウン選手



級審査会で形を披露する2人（手前からヤミン選手、スー選手）

競技力の向上とともに伝統的な「空手道」の心を学び、将来的に空手道を発展させていける土台を身につけてほしい。（外部コーチ 武藤健太）

大学柔道

星槎道都大学柔道部は、6月16日より全日本柔道連盟（全柔連）の指針に沿い、段階的に移行しながら練習を行っています。（右の図参照）

柔道は、組み合って行うコンタクトスポーツの代表的な競技であり、もしも、無症状感染者が練習に参加した場合、新型コロナウイルスの集団感染が起こる可能性があるため、練習再開や感染予防措置により一層の慎重さと厳密さが求められています。新型コロナウイルスの影響でなかなか思うように練習できない日々が続いていますが、星槎道都大学柔道部は、モチベーションを下げることなく、前に進んでいます。

10月、タンディン選手とキンレイ選手の二段昇段審査が行われます。11月には、2人のブータン留学生は他の部員と一緒に指導者講習会も受講します。将来、母国ブータンへ帰国し、指導者を目指す2人は、4区分「A、B、C、準」とされているうちのC指導員の取得をまず目指しています。本資格を得ることで、全柔連加盟・構成団体が主催する各都道府県大会で、その出場するチームまたは選手の監督を務めることができることになります。また、全柔連、あるいはその加盟・構成団体が主催する全国、及び各地区レベルの大会において、選手のコーチとして帯同する資格ともなります。

（FGC 石田博彰）

本学柔道部に在籍するブータンからの留学生、キンレイ選手とタンディン選手は目的である母国での柔道指導者となるべく学業と柔道を学んでいます。来年に延期された東京オリンピック出場を目指し、部員と切磋琢磨しながら稽古に励んでおります。また、11月に実施される全日本柔道連盟指導者資格講習会に参加し、指導者としての基礎内容を受講する予定です。

（星槎道都大学柔道部総監督 中川純二）

（星槎道都大学柔道部監督 三嶋廉嗣）

公益財団法人 全日本柔道連盟 2020年7月3日版

柔道練習段階表

段階	練習時間	練習内容	距離	備考
第一段階	1時間以内	受け身、トレーニング、1人打ち込み	2m	原則マスク着用、2m距離とり、マスク外し可
第二段階	1時間程度（総まない30分、組む30分）	軽い打ち込み、技の指導	2m	原則マスク着用、必要しい時は2m距離とり、マスク外し可
第三段階	2時間程度（組まない60分、組む30分）	乱取り、試合稽古	2m/16m（屋約8枚）	競技者以外は原則マスク着用
第四段階	制限なし	無観客または観客人数制限で試合可能	2m/16m（屋約8枚）	全国大会も可能



エリトリアの文化紹介

コーヒーセレモニー

アフリカ北東部に位置するエリトリアの首都アスマラは、標高 2,300 メートルの地にあります。イタリアの植民地だった時代に造られた建造物は、世界文化遺産にも指定されています。その名残で、街にはヨーロッパ風のカフェが立ち並び、コーヒーを飲みながら談笑する人々の光景がよく見受けられます。エリトリアの人々にとって、コーヒーは欠かせない飲み物のよう

です。そんなエリトリアには、「コーヒーセレモニー」という、コーヒーを飲む作法があります。日本の茶道のようにきちんとした順序・決まりがあり、1杯のコーヒーを数十分から、数時間かけて楽しみます。客人を迎えたり、式典やお祭りなどの特別な時、または各家庭で日常的にも「コーヒーセレモニー」は行われます。

(FGC 小野木 愛)



エリトリア大使館の皆様にご協力いただき、星槎国際高校厚木で実施したコーヒーセレモニー体験の様子（2019年）

「コーヒーセレモニー」の方法

- ①花や草を床に敷きます。
- ②お香を焚きます。
- ③お茶うけとして、ポップコーンを用意します。
- ④コーヒー豆を煎って、香りをみんなでかぎます。
- ⑤豆をつぶして、水とじっくりポットに入れて火にかけます。
- ⑥コーヒーは3杯飲みます。1杯目がいちばん濃く、だんだん薄くなります。

事務局より

SEISA Africa Asia Bridge 2020 11月14日(土)開催 今回は全ての会場、全てのプログラムをオンラインにて配信いたします!

世界子ども財団および星槎グループは、これまでエリトリアを中心にアフリカ、ブータン、ミャンマーといったアジア、そして太平洋諸国とのつながりを深めてきました。2015年に第一回目となるアフリカ・アジアの相互理解、交流機会を提供するイベント「SEISA Africa Asia Bridge 2015」(通称 SAAB)を開催し、現在に至るまで継続的にイベントを実施してきました。昨年は日本を含めた32カ国が参加し、約8,000人を上回る来場者を迎え、盛大なフェスティバルとなりました。

今年は「第6回 SEISA Africa Asia Bridge 2020」を11月14日(土)に開催いたします。昨年に引き続き、今年のテーマも「知繋(ちけい)」。知ること、繋がること、仲間になることを意味する言葉です。新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、今回は全ての会場、全てのプログラムをオンラインで配信いたします。ご自宅あるいはインターネットの環境が整っている場所であれば、どこからでも参加可能です。

今年のSAABではJICA横浜(横浜市中区新港2-3-1)も会場となり、様々なプログラムをオンライン配信します。さらにJICA横浜では、SAABの開催に合わせ、展示スペースにて11月3日(火・祝)から11月29日(日)まで世界子ども財団の活動紹介展示を行います。ぜひお立ち寄りください。



SAAB特設HP (<https://seisasaab.com/>)



2020年11月発行

公益財団法人
世界子ども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2 (星槎グループ内)
TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp
ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界子ども財団」で検索!
印刷: フルサワ印刷株式会社 制作: 岡村直実 (JC ユニット)

